

第7回首都圏小児結核症例検討会（平成28年度）開催概要

日時 平成29年1月21日（土曜日） 14時30分から17時30分
内容 1 首都圏における小児結核症例の検討 4症例
2 調査報告 医療機関における結核接触者健診の現状
3 研究報告 「小児結核診療のてびき」の紹介

参加者 小児科診療、結核診療等に従事する医療機関従事者（医師・看護師等）及び小児結核に携わる行政機関関係者（本庁および保健所の医師・保健師等）
定員 約100名
会場 東京都庁第二本庁舎1階 二庁ホール（東京都新宿区西新宿2-8-1）

第7回首都圏小児結核症例検討会において、発表された症例から小児結核に関する多くの課題が明らかになりました。

その課題から、今後の小児結核対策への取組として考えられるものは、以下のとおりです。

○ 今後の小児結核対策に対して考えられる取組

- ・ コッホ現象発生時の確実な対応
- ・ 小児を取り囲む成人結核患者の早期発見・治療
- ・ 積極的疫学調査と組み合わせた分子疫学調査の実施
- ・ 乳幼児に対する接触者健診の積極的な実施
- ・ 小児結核の診療レベルの維持向上
- ・ 小児結核の接触者健診を含めた診断・治療対応可能な医療機関の確保と病床の確保を含めた体制整備
- ・ 広域での小児結核の診療体制整備やコンサルト可能な支援体制づくり

○ 研究報告

国立病院機構南京都病院小児科医長徳永修先生の研究報告について、会場で配布した資料を掲載します。

○ 今後の首都圏小児結核症例検討会について

東京都では小児結核に関する課題の解決のため、今後も徳永先生との共催で本検討会を継続していきたいと考えております。

結核患者が減少している中で小児結核はさらに症例が少なく、行政機関も今後の対応が困難になっていくことが考えられます。

今後も首都圏における小児結核対策の一助とするためにも、首都圏の保健所及び医療機関の皆様からの症例提示について、ご協力いただきますようお願いいたします。